

## 紙

### 故 筒浦 明先生を偲ぶ

恩師、筒浦 明先生は、1993年1月28日、急性心不全のため77歳をもって急逝されました。この突然の弔報に接し深く哀悼の意を表します。

先生は、1917年5月に東京都港区赤坂でご出生になり、1942年に明治大学専門部文科・地理歴史学科を卒業され、その後、東京帝国大学理学部地理学教室の助手を経て、1944年に北海道帝国大学理学部地質鉱物学科に入学し、1947年に同学科を卒業されました。

1947年からは札幌二高(現札幌西高)、札幌南高校で地理・地学の教鞭をとられ、更には北海道大学文学部、北海学園大学、北海道学芸大学(札幌分校)でも教えられ、1957年に北海学園大学講師(地理学・地学)に就任され、以来、1990年3月に定年退職されるまで私学教育に尽瘁されました。その間、学界や教育界、産業界、社会活動に多大の貢献をされ、特に、北海道政経文化同友会会長、産炭地域振興審議会(通産大臣諮問機関)委員、北海道開発事業協会会長、北海道地方都市計画審議会委員などの要職も歴任されました。

1942年7月に日本地誌学会より「天竜川河口掛塚町の地誌」で論文賞を受賞され、地理学の窓が大きく開かれたと思われまふ。北海道地理学会との関わりは、戦後間もなくの1945年9月からで、一方、札幌地理研究会、札幌人文地理セミナー、札幌自然地理セミナーを創設し、会長や役員を引き受けられながら、多くの若き地理学徒に指導・助言をして下さいました。

先生は、地理学をベースとして幅広い見識と卓抜な行動力によって、北海道での日本地理学会秋季大会開催(1964年)のほか、日本港湾経済学会、日本国際地図学会、日本海学会の主役として活動された一方で、1975年以降、約10数年間にカナダ、フィンランドを始め、海外54ヶ国を訪ねられ、多くの都市地理研究、土地利用研究からのアプローチをされました。1981年にはアメリカのフレスノ大学、フランスのパリ市立大学での研究発表など、内外にわたるご活躍は目を見張るものがありました。帰国される度ごとにスライドや印刷物を見せていただく機会があり、その博学さにいつも驚きと畏敬の念を禁じ得ませんでした。

先生の人生に対するモットーは、「吾人はすべからく前進あるのみ、停滞即退歩」で、人生は万全の準備と全知を傾けて、自覚をもって前進し、目標を達成しなければならぬと説いておられました。自らその実践を行っておられたわけで、多くの学生がその影響のもとに巣立っていきました。

先生の研究業績は、論文についてみると人文地理学16篇、

## 碑

都市地理学16篇、集落地理学4篇、地域開発16篇、経済地理学10篇、土地利用6篇、観光地理学3篇、環境問題1篇、地形学11篇、地質学3篇、地理教育6篇の多数にのぼっています。また、単行本では共著を含めると21冊もの数に達します。その他、政治経済、北海道の将来方向についての多数の提言が種々の出版物に掲載されています。

本年4月号の「地図情報」に掲載された「札幌市の都市計画と実際」は、先生の逝去後に出版されたものですが、絶筆となりました。ただ、心残りには、永年研究された「利根川、鬼怒川、木曾川における砂丘の研究(仮題)」が資料蒐集を完了された段階で未完となったことで、さぞ残念なことであつたらうと拝察しております。

最後に、近年の先生のおもご経歴の一端をご紹介します。

1962年7月 北海学園大学助教授

1965年4月 北海学園大学教授

1969年4月 北海学園大学開発研究所長

1969年4月～1973年3月

北海道地理学会会長

1972年4月 北海学園大学教養部長(併任)

1974年9月 北海道地理教育研究会より教育賞授与

1979年4月～1981年3月

北海道地理学会会長

1980年4月～1985年3月

日本地理学会評議員

1990年4月 北海学園大学名誉教授

1991年10月 日本港湾経済学会より

功労賞授与

1993年4月 日本地理学会より永年会員功労賞授与

先生には、私自身、一人の弟子として公私共に大変お世話になりました。先生の急逝に色々な感慨がよぎり万感胸に迫るものがあります。書き足りないことも多々ありますがお許し下さい。どうぞ安らかにお眠り下さい。

林 隆治(札幌静修高校)記